船場の近代建築　～個性豊かなモダンデザイン～

最寄駅：　オオサカメトロ 各線 北浜駅・淀屋橋駅
京阪電車 北浜駅・淀屋橋駅

江戸以前　明治　大正　昭和　平成　令和

1 芝川ビル【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区北浜 3-3-3
建設年：昭和 2(1927) 年
構　造：鉄筋コンクリート造
規　模：地上 4 階、地下 1 階
設　計：渋谷五郎（基本設計・構造設計）
　　本間乙彦（意匠設計）
施　工：竣工　竹中工務店

芝川ビルは、関東大震災の後「大事、地震に強い建物を」との思いから、芝川又右衛門邸が建設しました。又四郎は、江戸時代から続く商家の6代目で、不動産業を営んでいました。教育に強い関心をもっていた又四郎は、昭和4(1929)年、ビル内に「芝蘭社英数学園」を開校。洋裁・和裁・習字・生け花・茶道・剣道など多彩な授業を開講し、自由な雰囲気で教育が行われ、昭和 18(1943) 年の閉校までに、3千人以上が卒業しました。

2 生駒ビルヂング【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区平野町 2-2-12
建設年：昭和 5(1930) 年
構　造：鉄筋コンクリート造
規　模：地上 5 階、地下 1 階
設　計：安建築事務所（安井武雄）
施　工：大林組

昭和5(1930)年の完成当初は1階から4階までが弁護士の事務所、5階は貸倉庫の大広間で洗濯業などがあり、10代の丁稚が住み込んでいたといわれます。デモクラシーの影響で大正モダンの時代からまもなく、世界恐慌が始まり、やがて戦争へと入っていく時代の10年間、このビルは時代に翻弄されました。彩り豊かな幾何のスクラッチタイルに大きな装飾窓、ブロックのテラコッタ。これらは昭和ひとけた、10年間だけにはやった素材で、大きな特徴になっています。

3 伏見ビル【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区北浜 2-2-3
建設年：大正 12(1923) 年
構　造：鉄筋コンクリート造
規　模：地上 3 階（一部 4 階）
設　計：長谷部竹腰
施　工：不詳

北浜付近は、大阪空襲の被害がうなかったことから、戦前からの建築物が今でも多く残っています。明治から伏見町を西に入って一つ目の角に立つ「伏見ビル」もその一つ。当時の姿は、屋の上部に設けられた円窓の飾り窓が残る建物は、大正 12(1923) 年、長谷部竹腰建築事務所で「津根ビル」として建設されました。コーナーに丸みをもたせている外観が特徴の鉄筋コンクリート造3階建てで、当時としてはめずらしいホテルとして人目をひきました。

4 新井ビル【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区今橋 2-1-1
建設年：大正 11(1922) 年
構　造：鉄筋コンクリート造
規　模：地上 4 階、地下 1 階
設　計：河合建築事務所（河合浩蔵）
施　工：清水組

大正 11(1922) 年、造幣博物館や神戸地方裁判所などで有名な河合浩蔵の設計、大日本麦酒販売(株)大阪支店として建てられましたが、のち新井証券を経て新井ビルとなります。名建築としてやかましいが、明瞭かつ印象を示しています。外観は完全な古典様式でなく典様式をベースにしていますが、当時の最新のデザインを取り入れるなど、新しい時代感覚をもっています。

5 北浜レトロビルヂング【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区北浜 1-1-26
建設年：明治 45 (1912) 年
構　造：煉瓦造
規　模：地上 2 階、地下 1 階
設　計：大林組
施　工：大林組

明治 45(1912) 年、大正「日本生命北浜別館」として建設されました。戦後は証券会社専門商社「林兼産業」の本社として使用されていました。設計を担当した辰野金吾は、長年暮らしたように思われていた古都ロマンチックの洋館を「日本の近代建築に再生（よみがえる）」という思いから、新しいオーナーが平成9(1997)年、今の姿に蘇らせました。オーナーの意匠提案を生かし、内部装飾などをつくりあげました。

6 青山ビル【登録有形文化財】

資料写真（令和元年）

所在地：大阪市中央区北浜 2-2-6
建設年：大正 10 (1921) 年
構　造：鉄筋コンクリート造
規　模：地上 3 階（一部 4 階）
　　地下 1 階（後年 5 階に増築）
設　計：大林組
施　工：大林組

明治から社交街を西へ入ると、甲子園球場から名付けられた裏で囲われたビルが建っています。このスペイン調のビルは、大正 10(1921) 年、輸入食料品などの経営者だった野田源次郎が私邸として大林組に設計・施工を依頼したもので、地上3階地下1階の屋付き建築物として完成しました。戦後、GHQにより接収されるという話が持ち上がりましたが、交渉の末、GHQ将校などの宿舎兼接待所としての利用を条件に免れます。昭和26(1951)年に返還、テナントビルとなり、名称を「青山ビル」としました。

船場では近代建築を巡る
街歩きや各ビルとコラボした
イベントが盛んにおこなわれています。

大阪が「大大阪」と呼ばれていた 大正～昭和にかけて、船場には次々と近代的なビルが建てられました。
オフィス、レストランなどいまなお 現役で多くのビルが活躍しています。ここでは個性豊かな近代建築 のなかから６つのビルをご紹介し ます。

船場の近代建築マップ

資料提供・協力
大阪市立図書館、大阪城工芸高校、大阪市中央区商店会連合会、大阪府立図書館、大阪歴史博物館、国際日本文化研究センター、国立国会図書館、船場近代建築ネットワーク、船場倶楽部、船場センタービル連合、船場センタービル連合、和歌大学、関西学院、京都府庁（五十音順）

大阪市中央区役所　編
中央区魅力発信／ いま むかし にぎわいパネル

ほかにも沢山の情報を掲載した
「わがまちガイドナビ」をご覧いただけます